

青天の霹靂の巻

ここで問題です。

歳をとってつつがなく暮らしていたつもりが、ある日重い病気が見つかり、医者は治療が難しく、しかもここからの寿命は短いだろうと言っている。想像がつかますか？あなただったらどう反応するでしょうか。こういうとき、いま現在は元気なのに、なぜか「早く死なせてほしい」と希望される患者さんは少なくありません。かといってふさぎ込む様子もない。しかも判で押したように、「もうご飯も食べません。点滴なんてしたら延命になってしまうからやめてください。先生のところへ行けばスーッと死なせてくれるでしょ？」と言い出します。ちなみに点滴しなければ楽に早く死ぬる、も、カンフに行けば早く死ぬる、も勘違いです。早とちりです。

私たちが慣れてるので、それを聞いて驚くことはありません。否定したところで聞く耳はないのもわかっています。本人が最良の選択だと興奮している最中に、かける言葉はありません。ああ、この人は今そっち側へ行ってるのだなと思います。私は何度か、どうしてそのように希望するのか、聞いてみたことがあります。ある人は、どうせ死ぬのなら、今死んでしまいたいと言いました。ずっと先だと思っていたお迎えが案外近いと知った途端、今度はいつ崖っぷちから落ちるのかと心配しながら日々を過ごす、そんな悩みから解放されたいようでした。

先の戦争で日本の軍隊では、追いつめられると進んで最後の突撃をして自ら全滅する部隊も多かったと何かで読んだことがあります。それと似ている気がしました。あれはたぶん「戦陣訓」のような規範のせいだけでなく、ひとは進退窮まると、ややこしい取引を抜きにしてさっさと物事を始末してしまいたい心持ちというのがあるのかもしれない。

またある人は、「〇〇がん」という病名を聞いただけで、その病気は必ず痛みで七転八倒するものと決めつけ、そうした症状が出るのを怖がるあまり、早く逝きたいと仰っていました。また別のある人は、病気で動けなくなったりすること自体が「家族や皆さんに迷惑」だから早く逝きたいと言いました。そういう心境が、私たちの言葉や働きかけで変わるかもしれないと思うこともあります。しかし、私などが「そんなこと言わないで」「考え直そうよ」などと別の価値観を押し付けたとしても、その人にとっては破壊行為にしか見えないのかもしれない。その人が長年蓄積した思考パターンから出した答えを、他人が救世主気取りでもてあそぶことには抵抗があります。せめて私たちとのかかわりの中で、「生きているのも案外捨てたもんじゃないな」と思ってくれたらいいなと願うばかりです。

いずれにせよ、その時の都合で「早く逝きたい」と願っても、残念ながら思ったようにはなりませんし、そのお手伝いもできません。海外でしばしば行われる安楽死を夢見て「緩やかな自殺」を願う心情に対しては、少なからず共感もできます。私だって健康を損ない、生きる意味を失ったと感じれば、正直「もういいや」となるかもしれない。悔いのないように生き切って、これで満足と思って迎える最期と、後悔と失望で迎える最期の間には相当の隔たりがあるはず。自分ができることの範囲で前者を味わうにはどうしたらいいか？自分にとっての生きる意味って何だろう？何となくわかるのですが、そのための行動は簡単ではなかったりします。たぶんあなたもそうでしょう？